

令和5年7月5日

丹波篠山市長 酒井 隆明 様

丹波篠山市議会議長 小畠 政行

議会報告会における提言書の提出について

丹波篠山市議会では、市民に開かれた身近で信頼される議会、市民の負託に応えられる議会の実現を目指し、市政全般にわたって、議員及び市民が自由に情報及び意見交換をするために議会報告会を開催しています。

令和5年度（前期）については5月12日から5月31日の間に市内9地区で開催し、十分な感染対策を取りながら直接市民の皆様方のご意見をお伺いさせていただき、2部においては「担い手不足」をテーマとし、地域の現状や喫緊の課題等について、多くの意見交換をさせていただきました。

また、自治会長を始め、まちづくり協議会長、子育て世代の保護者や地域住民の皆様など、多くの方々にお越しいただき、貴重なご意見・ご提言を数多く頂戴致しました。

今回、頂戴しましたご意見・ご提言の中から、本議会として特に喫緊の課題であると考え内容について提言いたしますので、今後の予算・事業などの市政運営に反映していただき、「成しとげます！『日本の宝石丹波篠山市』」の実現に向けて、より一層の創意工夫・特段のご配慮をお願い致します。

人口減少、少子高齢化における担い手対策について

高齢化や人口減少の本格化により、農業者の更なる減少や耕作放棄地が拡大し、地域の農地が適切に利用されなくなることが今後ますます懸念される。

また、地域では祭りや役員の担い手も不足しており、ある地域では、「60歳になっても現役消防団員である。いつまでもやめられない。」の声も聞く。

「担い手」の確保は、喫緊の課題であり、有効な対策が必要である。

市においても、各種様々な対策を進めていただいているが、制度設計に際し住民ニーズ、現況の調査、把握は必要不可欠であることに加え、時代のニーズ、現在の住民のニーズに合致しているか定期的な制度見直しが必要である。

万人が対象となる制度設計は無理であるが、実際の制度対象となる当事者等の意見を広く聞き、地域の実情に応じた課題の解決に向け、対策の推進をお願いしたい。

併せて、制度の周知徹底、相談窓口の充実等、誰一人取り残すことのないような取組をすすめていただきたい。特に、地域の相談窓口として、一番身近な存在である支所及び地域サポート職員の充実（人材育成）についても検討いただきたい。

市の掲げるビジョンを住民と共有し、市と住民が同じ方向を向いて、明るい未来に向かって共に進んでいけるような取組に期待する。

以上